

# 日本学術会議総会報告（抜粋）

## 政府、社会及び国民等との関係

（2025.10～2026.3）

- 1 科学と社会委員会
- 2 課題別委員会
- 3 広報委員会
- 4 科学的助言等対応委員会
- 5 その他

2026年4月9日  
担当副会長 磯 博康

# 3. 広報委員会

(委員長:磯 博康)

## 広報活動強化の具体的な取組

### ■意思の表出の「広報用チラシ」の作成

- 2025年12月23日の幹事会において、意思の表出の「広報用チラシ」を作成することが決定
- 提言は原則すべて、意思の表出を作成した分科会等の責任において作成(その他の意思の表出は必要に応じて)
- 一般の国民が興味・関心を抱き、本文の閲覧につながるような広報用チラシを作成
- 片面1ページとし、一般国民を引き付けるわかりやすく親しみやすい記載
- 日本学術会議ウェブサイトにて公表



広報・コミュニケーションのプロフェッショナル人材を広報アドバイザー・学術調査員として委嘱・採用し、広報用チラシも含め、コンテンツの作成や助言を得る体制を整えている

**日本学術会議**  
SCIENCE COUNCIL OF JAPAN

## 『数』から『質』へ 研究力強化に向け一歩踏み込んだ提案

提言「研究の活性化へ向けた研究評価の具体的な改善方策」

**現状の課題**

- 「数字」への偏重
- 短期的な成果主義
- 研究者の「萎縮」

**本提言**

- 評価制度の改善
  - ・ 多面的指標の導入(教育・社会貢献等)
  - ・ 質を重視した審査
  - ・ 長期的視点での評価
- 人材育成・支援
  - ・ 評価者トレーニング
  - ・ 審査員の質の向上
  - ・ 多様なキャリアパス支援

**目指す未来**

- 多様な挑戦の促進
- 健全な研究環境の情勢
- 次世代の育成

**現状の課題**  
近年、論文の数や引用された回数といった「数字」だけに頼る評価が、研究の多様性や新しい挑戦を難しくしていると言われています。

**本提言**  
そこで、研究の目的や社会貢献といった多様な価値を測る指標の導入や評価者のトレーニングを踏まえて、改革の実装に向けた7つの具体的方策(二次元コード参照)を提案します。

**目指す未来**  
研究者が萎縮することなく、挑戦的な課題に取り組める「健全な研究環境」と「文化」を取り戻すための、実践的なロードマップを示します。

提言の要旨・本文等は、[こちら](#)



令和7(2025)年11月27日公表

## 4. 科学的助言等対応委員会

### 意思の表出の作成に関して、各委員会・分科会へのお願い

#### 1. 意思の表出を行う時期について（2025年4月・10月総会における磯副会長報告資料より抜粋）

今期3年間における意思の表出は、原則、今期末の9カ月前（2025年12月末）までを目途に発出できるように努めていただきたい。これに間に合わない場合でも遅くとも今期末の6カ月前（2026年3月末）までに発出。

今期の最後の1年間は、原則、各関係機関等への周知、シンポジウム、フォローアップ等に充てていただきたい。

- 
- ・今期は、タイムリー、スピーディな発出に向け、各分科会等が、時宜を得た発出やフォローアップを主体的に行うことを念頭に、何度か意思の表出に関する上記の様な「標準スケジュール」を提示してきたが、多くの案件が、申出時の発出スケジュールから遅延状態です。
  - ・現在作成中の案件は、査読や承認手続に要する時間にも十分考慮し、大幅なスピードアップが必要です。そのため、意思の表出の種類を見直すこと（例：提言→見解、見解→報告）や「記録」とすることも検討いただきたい。
  - ・今後提出予定の意思の表出の申出については、科学的助言等対応委員会において種類の見直し（例：報告や記録）や今期発出の必要性も含めて、検討させていただきたい。
  - ・今期中にフォローアップ・レポートの提出ができない場合は、次期の後継分科会等への確実な引継ぎをしていただきたい。
  - ・次期の当初から、各分科会等で過去の意思の表出を振り返って、中長期的なインパクト・レポートの作成についても検討いただきたい。

## 4. 科学的助言等対応委員会

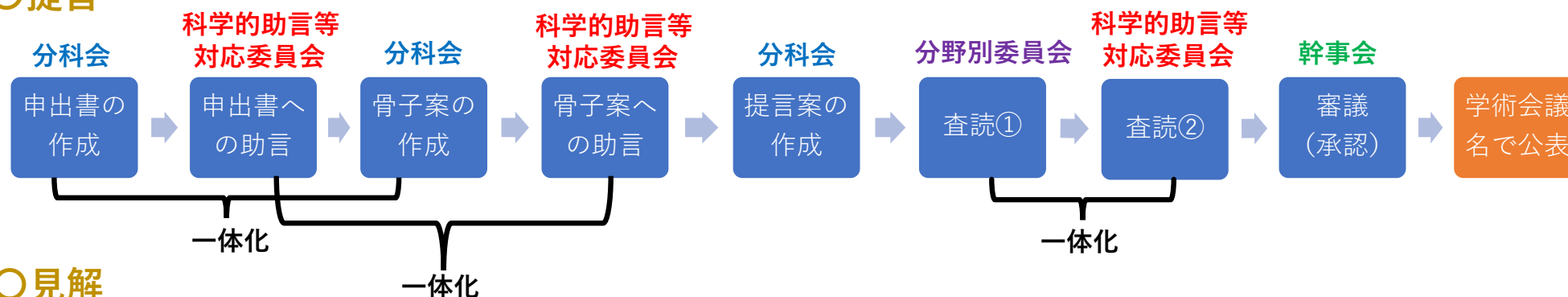
### 次期以降の申出、査読等の効率化について（主な見直し案）

- ① 「提言」の申出書について、手続に要する時間短縮のため、現在運用上の措置である**検討課題と骨子案の同時提出を定型化**
- ② 査読プロセスの迅速化: 質の担保の上で、現行「二段階」の査読を「一段階」に集約
  - ・ 「提言」: 分科会を設置した委員会の査読と科学的助言等対応委員会の査読の一体化（承認は役員会）  
    ※査読体制: 委員会2名、対応委員会3名、取りまとめ(エディター)1名
  - ・ 「見解」: 分科会を設置した委員会の査読と部の査読の一体化（承認は科学的助言等対応委員会）  
    ※査読体制: 委員会2名、部2名、取りまとめ(エディター)1名
  - ・ 「報告」: 査読は 1 回のみなので、現行どおり（承認は各部等）
  - ・ 取りまとめ(エディター): 会員、学術調査員等（要検討）

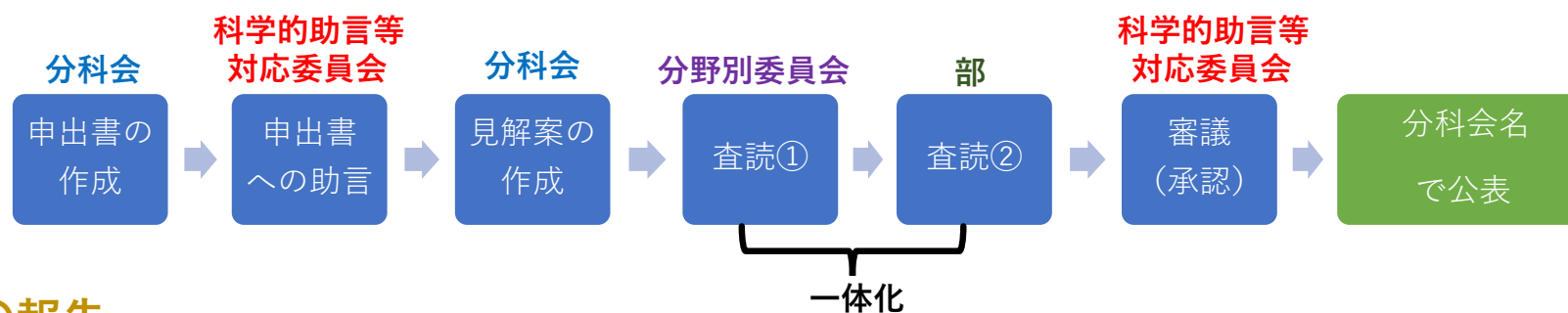
## 4. 科学的助言等対応委員会

### 見直し案のイメージ

#### ○提言



#### ○見解



#### ○報告

